

社長インタビュー

東日本大震災後、日本のエネルギーを巡る環境が大きく変化しています。社長インタビューでは、こうした変化が業績に及ぼした影響をはじめ、大阪ガスグループの今後の展望についてお聞きしました。

社長インタビューの主なテーマ

1. 2012年3月期の業績について
2. 電力需給逼迫による業績への影響
3. 今後の電力事業について
4. 2013年3月期の経営方針と業績見通しについて
5. 長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」の進捗状況
6. シェールガスの調達について
7. 今後の資本政策と株主還元について



1. 2012年3月期の業績について

Q

2012年3月期の業績を振り返り、評価をお聞かせください。

A

電力事業利益や連結子会社利益などが堅調に増加しましたが、原料費調整制度による時期ずれ差損拡大の影響が大きく、減益となりました。

2012年3月期の業績－増収・減益

2012年3月期の連結売上高は、前期比9.1%増収の1兆2,947億円となりました。これは、LNG価格の上昇に伴いガス販売価格が上昇したことが大きな要因ですが、電力需給が逼迫したことを背景に、お客さまのコージェネレーション設備の稼働が増加し、工業用ガス販売量が増加したことや、電力事業売上が増加したことも、その一因となっています。

連結営業利益については、電力事業利益が増加し、都市開発事業や情報事業などの連結子会社利益も増加しましたが、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス事業利益が減少した影響が大きく、前期比12.8%減益の772億円となりました。原料費調整制度では、LNG価格の変動がガス販売単価に転嫁されるまでの時期ずれにより、差損益が発生しますが、2012年3月期は、この時期ずれによる差損が、前期に比べて222億円拡大し、307億円となりました。このように2012年3月期は、減益決算ではありましたが、時期ずれ差損などの短期的な利益変動要因を除いて考えますと、堅実な業績を残すことができたと考えています。

電力事業－大幅増益

2010年3月期に運転を開始した泉北天然ガス発電所は、順調に立ち上がって、安定操業を続けており、電力事業は、第2のコア事業として、着実に成長しています。電力事業利益*は、2011年3月期に、123億円にまで達していましたが、2012年3月期は、電力需給逼迫を背景とした販売単価の上昇や販売量の増加もあり、前期比67.2%増加の206億円となり、めざましい実績を収めました。

* 大阪ガス附帯事業における電力事業利益を表す。

2012年3月期業績（連結）

	2011年3月期	2012年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	11,871	12,947	+1,076	+9.1%
営業利益(億円)	885	772	-113	-12.8%
当期純利益(億円)	459	452	-7	-1.7%
時期ずれ差損益(億円)	-85	-307	-222	—
為替レート(円/\$)	85.7	79.1	-6.7	-7.7%
原油価格(\$/bbl)	84.1	114.2	+30.1	+35.8%

2. 電力需給逼迫による業績への影響

Q 電力需給逼迫により、業績にはどのような影響がありましたか？

A コージェネレーション向けやIPP向けなどの工業用ガス販売量が増加した他、電力販売量が増加しました。

ガス販売量－工業用が増加

2011年3月に発生した東日本大震災と、その後の電力需給問題では、ガス事業と電力事業を中心に、様々な影響が見られました。

2012年3月期の商業用・公用・医療用ガス販売は、前期の夏が猛暑であったことの反動に加えて、お客さまの節電や省エネルギー推進の影響と見られる空調用需要の減少も一因となり、前期比3.0%減少の15億7,500万m³になりました。

一方、工業用ガス販売では、新規需要開発を着実に進めたことに加え、節電対応を行うお客さまのコージェネレーション設備の稼働が増加したことや、卸供給事業用発電所（IPP）向けのガス販売量が増加したことなどから、前期比5.2%増加の43億5,500万m³となりました。

電力需給逼迫によって、ガス販売は、商業用・公用・医療用においてマイナスの影響がありましたが、工業用でのプラス影響の方が大きかったと考えています。

2012年3月期ガス販売実績

(百万m ³)	2011年3月期	2012年3月期	増減	増減率
家庭用	2,275	2,271	-4	-0.2%
商業用・公用・医療用	1,624	1,575	-49	-3.0%
工業用	4,141	4,355	+214	+5.2%
他ガス事業者向け	488	480	-7	-1.5%
(個別) ガス販売量合計	8,528	8,681	+154	+1.8%
(連結) ガス販売量合計	8,560	8,711	+152	+1.8%

電力販売量の増加

2012年3月期の電力販売量は、お客さまからの電力供給の増量のご要請にお応えして、稼働を増加させるなどした結果、前期比11.1%増加の79億32百万kWhとなりました。電力需給が逼迫する中で、泉北天然ガス発電所を含めた大阪ガスの電源は、電力需給の緩和に貢献しています。

3. 今後の電力事業について



電力事業への関心は、かつてないほど高まっていますが、今後の電力事業について、どのようにお考えですか？



現在、泉北天然ガス発電所を含めて、国内外に約320万kWの電源を保有しています。今後は、電源コージェネレーションの設置などにより、保有電源規模のさらなる拡大を図ります。

現在の保有電源規模—約320万kW（国内に約180万kW、海外に約140万kW）

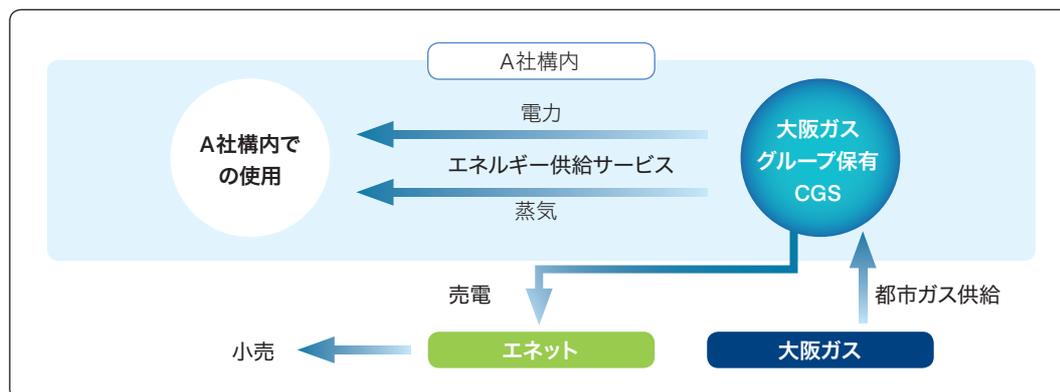
大阪ガスグループでは、電力事業をガス事業に次ぐ第2のコア事業と位置付け、保有電源規模の拡大に努めてきました。現在、泉北天然ガス発電所をはじめ、卸電力事業用発電所（IPP）、風力発電所など、国内に約180万kWの電源を保有している他、海外にも約140万kWの電源を保有しており、国内外で合計約320万kWの電源を保有しています。

電源コージェネレーション事業の拡大

今後は、特に国内において、コージェネレーション設備などの中規模発電設備をお客さま先に設置して、分散電源の普及に努めるとともに、その余剰電力を大阪ガスグループが買い取り、小売事業に活用する「電源コージェネレーション」事業を推進し、電力需給の緩和に貢献していきます。

また、エネルギー政策の議論の動向を踏まえつつ、運転開始までのリードタイムや事業リスクなどを評価し、事業機会があると判断できる場合には、大規模発電設備の建設も視野に、保有電源規模のさらなる拡大に取り組んでいきたいと考えています。

電源コージェネレーション事業のスキーム例



4. 2013年3月期の経営方針と業績見通しについて

Q

2013年3月期の経営方針と業績見通しについて、お聞かせください。

A

2013年3月期は、ガス事業利益の増加や費用の減少などにより、増益となる見通しです。

活動方針－Change & Challenge

2013年3月期は、東日本大震災以降の変化に対応し、変革に挑戦する「Change & Challenge」の年として、次の4つの重点実施課題に取り組みます。

(1) 全てのお客さまに、より進んだ安心・安全を

- 原料の安定的かつ安価な調達
- 製造・供給設備の増強・多重化と災害対策の推進

(2) 天然ガス・分散型エネルギーシステムで新たな社会を

- コージェネレーションシステム（家庭用燃料電池、業務用・工業用コージェネレーション）、スマートハウス、ガス冷暖房の普及拡大

(3) 新たなビジネスモデル、さらなる投資の拡大を

- 電力事業、国内広域LNG卸供給
- 海外エネルギーバリューチェーン事業
- 関係会社（都市開発、材料ソリューション、情報、LPガス・産業ガス、ライフサービス）

(4) 社会・地域とより強固な絆を



2013年3月期の業績－増収・増益計画

2013年3月期の連結売上高は、原料費調整制度を通じてガス販売価格が上昇することや、沖縄電力(株)さま向けLNG卸供給が開始されることなどから、前期比5.3%増収の1兆3,630億円を見込んでいます。営業利益は、原料費調整制度における時期ずれ差損が縮小し、ガス事業利益が増加する他、2007年税制改正による残存簿価5%到達資産の5年均等償却が終了し、減価償却費が減少することなどから、前期比16.5%増益の900億円を見込んでいます。

2013年3月期の個別ガス販売量は、工業用において、コージェネレーション設備の導入や稼働増加などにより、前期を1.1%上回る44億400万m³を見込んでいますが、家庭用及び商業用・公用・医療用において、平年気温を前提とすることなどにより、前期を下回る見通しとなることから、合計では、前期を0.7%下回る86億2,100万m³を見込んでいます。

2013年3月期の電力事業について、電力需給が2012年3月期とほぼ同じ水準になる前提で、利益も2012年3月期とほぼ同じ水準を見込んでいます。

2013年3月期は、国内外の政治・経済、エネルギーを巡る政策など、様々な変化が予想されますが、これらの変化に適切に対応しつつ、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」の実現に向け、経営計画を着実に遂行していきます。

2013年3月期業績見通し(連結)

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (見通し)	増減	増減率
売上高(億円)	12,947	13,630	+682	+5.3%
営業利益(億円)	772	900	+127	+16.5%
当期純利益(億円)	452	570	+117	+26.1%
時期ずれ差損益(億円)	-307	-31	+276	—
為替レート(円/\$)	79.1	80	+0.9	+1.1%
原油価格(\$/bbl)	114.2	115	+0.8	+0.7%

2013年3月期ガス販売見通し

(百万m ³)	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (見通し)	増減	増減率
家庭用	2,271	2,232	-39	-1.7%
商業用・公用・医療用	1,575	1,512	-62	-4.0%
工業用	4,355	4,404	+49	+1.1%
他ガス事業者向け	480	474	-7	-1.4%
(個別) ガス販売量合計	8,681	8,621	-60	-0.7%
(連結) ガス販売量合計	8,711	8,652	-59	-0.7%

5. 長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」の進捗状況



長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」の進捗状況をお聞かせください。



国内エネルギーサービス事業、海外エネルギーバリューチェーン事業、環境・非エネルギー事業のいずれにおいても、事業領域拡大のための取り組みと投資が順調に進んでおり、株主さま価値、お客さま価値の向上も実現しています。

事業領域の拡大

長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」では、国内エネルギーサービス事業、海外エネルギーバリューチェーン事業、環境・非エネルギー事業の3つの事業を柱に、それぞれの事業領域を大きく成長させることを目指しています。

2012年3月期までの3カ年で、事業領域拡大のための取り組みは順調に進んでおり、その成果も徐々に現われつつあります。

国内エネルギーサービス事業では、泉北天然ガス発電所の安定操業により、電力事業は、当初想定を上回る大きな事業の柱に成長しています。また、次世代型家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファームtypeS」を市場投入した他、広域事業では、沖縄電力(株)さま向けLNG卸供給を開始しました。

海外エネルギーバリューチェーン事業では、新たに、カナダ・シェールガス開発プロジェクトやオーストラリア・イクシスLNGプロジェクトへの投資を意思決定した他、スペイン・サグントLNG基地事業やアラブ首長国連邦・シュワイハットS2発電・造水事業の利益貢献が始まっています。

環境・非エネルギー事業では、収益不動産の取得を進めた他、国内外での風力発電事業の利益貢献が始まっています。

積極的な新規事業拡大投資

長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」では、2010年3月期から2021年3月期までの12年間で、長期的な需要見通しを考慮した製造・供給設備の形成や、安定供給・保安レベル向上のための既存事業の品質向上に7,000億円、国内外での新規事業拡大に8,000億円、合計1兆5,000億円の積極的な投資を進める計画です。

このうち、新規事業拡大のための投資については、これまでに、姫路・岡山ラインの建設、オーストラリア・ゴーゴンLNGプロジェクトやイクシスLNGプロジェクトへの参画、収益不動産の取得など、2010年3月期からの累計で、2,660億円の意思決定を行っています。これは、2010年3月期から2014年3月期までの5カ年で計画している投資額4,000億円の3分の2に当たり、順調に進捗していると考えています。

企業価値の向上

長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」では、企業価値の向上を目標として掲げています。

このうち、株主さま価値については、2011年3月期に、1株当たり、年間1円増配し、年間8円の配当を実現した他、200億円の自己株式取得を実施し、株主さまのご期待にお応えしました。また、お客さま価値については、2012年2月に、小口ガス料金を平均1.2%引き下げる料金改定を実施し、お客さまの信頼にお応えしています。



6. シェールガスの調達について

Q

シェールガスに対する関心が高まっていますが、シェールガスの調達について、どのようにお考えですか？

A

シェールガスは、将来の有力な調達源として期待しています。

将来の有力な調達源

技術開発の進展により、頁岩（シェール）層に賦存するシェールガスが北米で産出されるようになり、シェールガスに対する関心が高まっていますが、大阪ガスグループも、将来の有力な資源として、深い関心を寄せています。

大阪ガスグループでは、現在、東南アジア、オーストラリア、中東、ロシアなどの7カ国から、LNGを調達しており、中期的に必要なLNGは既に契約により確保していますが、その豊富な資源量はもちろん、調達先の分散などの観点から、シェールガスは将来の有力な調達源になると考えています。

また、現在、大阪ガスグループが調達するLNGは、原油価格に連動したフォーミュラで価格が決められていますが、北米ガス価格を指標にしたフォーミュラでシェールガスからできるLNGを輸入することができれば、LNG価格のあり方そのものが変わる可能性もあり、調達価格の観点からも、シェールガスには期待を持っています。

シェールガス開発プロジェクトへの参画

2012年3月期には、カナダ・ブリティッシュコロンビア州におけるシェールガス開発プロジェクトへの参画をした他、2013年3月期には、米国・テキサス州におけるシェールガス・オイル開発プロジェクトにも参画しました。これらにより、シェールガス開発に関する知見ならびにマーケット情報などを獲得し、シェールガスをLNGとして日本に輸入する可能性についても検討を始めています。

今後も、新たなシェールガス開発プロジェクトや、LNG輸出プロジェクトなどへの事業参画の機会を探りながら、シェールガスからできるLNGの調達の実現に向けた取り組みを進めていきます。

7. 今後の資本政策と株主還元について



今後の資本政策と株主還元についての考え方をお聞かせください。



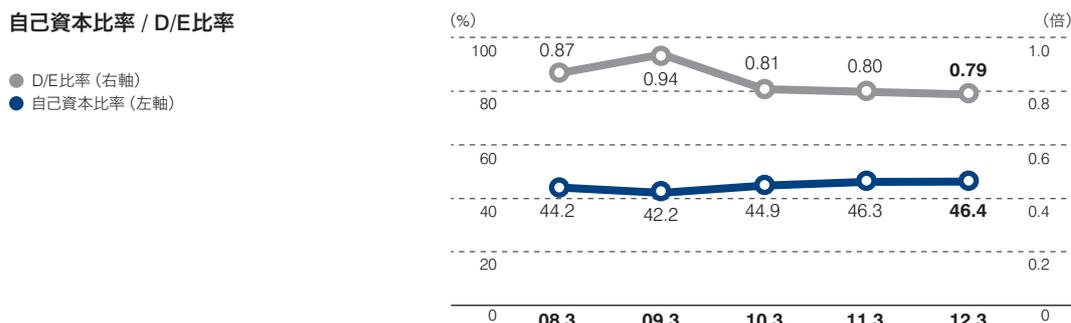
安定配当の継続を基本に、短期的な利益変動要因を除いて連結配当性向30%以上を目指すことが基本方針です。自己株式取得は機動的に実施していきます。

積極的な投資を進めるとともに財務健全性を維持

長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」期間中は、将来の成長のための投資を積極的に進めたいと考えており、キャッシュフローは優先的に投資に振り向ける方針です。一方で、財務健全性の維持にも努め、自己資本比率40%以上、D/E比率1程度を中長期的に維持することを目指します。

2012年3月期末の自己資本比率は46.4%、D/E比率は0.79となっており、財務健全性から見た余力は十分にあることから、2013年3月期は、レバレッジを利かせながら、積極的に投資を進めていく方針です。

自己資本比率 / D/E比率

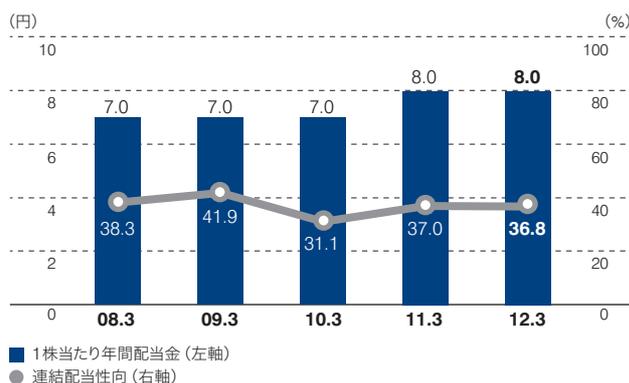


配当と自己株式取得の考え方

大阪ガスは、株主還元の方法として、配当による還元を基本と考えています。配当については、安定配当を旨とし、短期的な利益変動要因を除いて連結配当性向30%以上を目指していく方針です。自己株式取得については、成長のための投資を実施した上で、財務状況やキャッシュフローに余裕がある場合に、機動的に実施していきたいと考えています。

今後も、長期経営ビジョン・中期経営計画「Field of Dreams 2020」で掲げた3つの事業での利益成長を図り、株主さまのご期待に沿えるよう努めてまいります。

配当 / 配当性向



自己株式取得

(億円)	取得金額
2008年3月期	300
2009年3月期	0
2010年3月期	0
2011年3月期	200
2012年3月期	0